



第14号

高知県立高知国際中学校だより

高知県立高知国際中学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部2丁目5番70号

よい年をお迎えください 校長 森本民之助

この一年の間に私たちの生活様式は大きく変わりました。皆さんの生活にはどのような変化があったでしょうか。私は最近、圧倒的に読書の時間が少なくなっていることに気づき、少し寂しい気持ちになりました。私は本が好きでいろいろな種類・部門からこだわりなく読みます。どの本を読むかの決め手には、手に取ったときの重さや手触り、表紙の美しさ、友人の勧め、雑誌やラジオでの紹介などがあり、書かれている内容をよく調べずに読み始めることもあります。何を読むかと同じくらい、本を読む行為そのものに価値を置いているのです。読書は生活の一部であり、読書そのものが生活の質を高めることにつながっていることも改めて確認できました。

私が好きな読書のカチは、落ち着いたカフェでコーヒーを飲みながら本を読むことでした。読書は生活のあらゆる場面で可能ですが、新しい本を読み始めるとき、読み終わるとき、生活の質を確認したいとき、気分を一新したいときなどには、特に読書のカチにこだわります。読書に集中すると周囲の状況は関係なくなると思われがちですが、違います。匂い、気温、空気の動き、音、景色などが知らず知らずに読書に影響しているのです。そして、本の中からふっと現実に戻ったとき、周囲の雑踏との間のちよとした時空のずれも楽しめます。ですが、最近の状況を考えると、カフェでゆっくり本を読むことができていません。読書の時間が減っています。そのことにより、生活の質が維持できているのか心配になっています。

さて、全国学校図書館協議会が毎年続けている学校読書調査では、その年の5月の1ヵ月間に読んだ冊数を小学校、中学校、高等学校別でそれぞれ調べています。この調査によると令和元年5月の1ヵ月間に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合は、小学生で6.8%、中学生で12.5%、高校生で55.3%となっています。進学するにつれて読書をしていない実態が浮かび上がっているようです。本校は、図書館担当者の努力により質の高い読書環境が保たれています。例えば、精選された新書の購入、居心地のよい図書館の空間、図書の紹介などです。図書館の環境については中学校だより第12号でも紹介をしています。また、国語科通信の国語科教員からのおすすめ図書を紹介する「今月の1冊」のコーナーは、いつも何が紹介されるか楽しみです。

生活様式の変化はこれからも続くでしょう。現在は高度情報社会であり、たくさんの情報・知識をインターネットなどで簡単に手に入れることができます。スマホやタブレットなどで電子書籍もどんどん生活に入り、読書のカチにも影響を与えるでしょう。そんな中で、一人ひとりが自分の気に入った読書のカチを見つけ、豊かな生活を送ることにつなげることができたらいいなあ、と願っています。

よいお年をお迎えください。

高知国際中のIBプログラムについて -第3段-

Arts

美術主任：西森舞

MYP 美術とは

日本で行われるMYP芸術は大きく分けて2つの科目があります。①音楽②視覚芸術の2つです。この中で美術は「視覚芸術」のことを指します。美術は絵を描くだけと思う人が多いですが、絵画・彫刻・陶芸・建築など幅広く、すべての視覚的な美しさや良さを探究します。これは日本の学習指導要領とほとんど変わりありません。

MYP 美術の特徴

美術ではアートプロセスジャーナルとしてスケッチブックに授業での学習のすべてを書きます。MYPの大きな特徴は探究テーマとその学習の到達度を示す評価です。美術の評価では制作で出来た作品だけではなく、制作の過程を評価します。下の評価観点の説明にもあるように、絵など作品だけで評価できる部分は一部です。振り返りや探究の問いへの答え、アイデアなど自分の考えや思いをスケッチや言葉でスケッチブックに書きます。そのほとんどが評価課題となります。

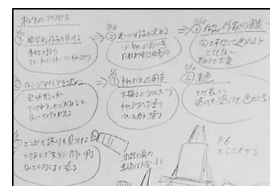
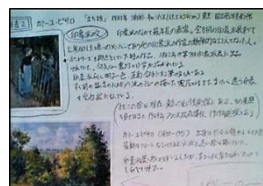
【MYP 美術の評価観点】

観点 A…知識理解。美術の用語や要素の使用や理解

観点 B…技術の発展。学習した技術や技法の使用や上達

観点 C…創造的思考。アイデアの決定や決定案以外の代案の提示、その他のアイデアの探索

観点 D…応答（鑑賞）。自他の作品の評価、美術が社会に与える影響の認識



生徒の作品



IBは授業方法のことではなく、教育方法のことです。人間を育てる方法についての提案がIBです。その前提となる知識に関するアイデアは、「構成主義」というものです。これは、「知識は自分の脳の中にはないので誰かから教えてもらわなければならない」というのではなく、「知識とは法則や方法のようなものなので自分たちで発見し作っていくことができる」という考え方のことを指します。ここに既に、私たちが普段何気なく使っている「知識」という言葉についての捉え方にズレを見ることができます。

そしてこのズレは、特に社会科という教科において重大な問題を生み出します。それは、私たち教師が「社会はこうである」と定義して教えることが能力的にも倫理的にも可能かどうかという問題です。

それは戦前の日本国についてもそうですが、現在の社会システムについても同様です。私たちは現在の社会システムについて無自覚にそれを前提としたものの見方をしているのではないのでしょうか。そして教師はそれを次の世界の主人公である子どもたちに引き継ぐべきでしょうか。知識が外部にあると信じていれば引き継ぐべきだとなるでしょうし、知識は構成されるものとするならば、それを引き継ぐかは子どもたち自身に選択する権利があります。

中学2年生の歴史の授業では現在、第二次世界大戦時の日本が犯した数々の戦略的ミスを事例として研究し、日本の管理職・組織が持つ根本的な問題について明らかにすることで、敗戦を経てこの国がどのように変わったのかまたは変わらなかったのかについて学習しています。この学習を経ることで社会の主體的な構成者としてのものの見方を養うことができればと思っています。



よりよい環境のために

よりよい環境のために、本校にはいろいろな仕事があります。今回は学校事務について紹介します。

学校事務職員 主幹：土居 喜一郎

学校の事務って??学校の事務室って、どのようなことをしているの??ここでは、学校事務と本校の事務室について少しばかりですが紹介させていただきます。

学校事務とは、学校や学校での教育活動に関わる全ての事務のことを言います。なので、学校事務は、学校事務職員だけでなく、全教職員が行っており、生徒のみならず保護者の皆さまにも各種書類の作成や提出、事務手続などで学校事務に関わってもらっています。いつも、ご理解とご協力いただき、ありがとうございます。事務室は、その学校事務の専門部署として多岐にわたる学校事務に関する業務をしています。

本校の事務室は本館の正面玄関入ってすぐのところであり、いまは高知国際中学校・高等学校と高知西高等学校の3校合同の事務室となっています。事務室には、管理職で事務室をまとめる事務長1名、学校事務職員5名、事務補助1名、用務補助2名、PTA職員1名の合計10名がおります。3校の合同事務室ということで県内でも大規模な事務室だと思います。

事務室では、来客者対応等の窓口業務から、学校に届く文書等の受付、学校の施設・教材・物品等の管理や整備、教材・書籍・物品等の購入や支払、学校の収入にかかる手続、生徒や卒業生に関する証明書の発行、授業料（高等学校）や学校給食費（中学校）に関する業務、就学支援（援助）制度等に関する業務、入試事務、教職員の人事・服務・給与・旅費・福利厚生など、ここでは書ききれないほど多種多様な業務を行っています。まさに学校の全てのことに関わる仕事をしています。また、3校合同事務室ということで高知国際中学校・高等学校と高知西高等学校3校分の学校事務に関わる業務があります。これもまた県内では他にはない学校ではないのでしょうか。そのような中で事務室では、業務分担を行い、一人ひとりが3校の教職員の一人として責任を持って、それぞれが担当する各業務にあたっています。

私は、高知国際中学校籍の学校事務職員として主に高知国際中学校・高等学校の予算や支出に関する業務、高知国際中学校の学校給食費の集金・支払業務、就学援助制度に関する業務、教科書の無償給与に関する業務、3校のAEDや備蓄物資等の整備や管理業務などを担当しています。担当業務では、高知国際中学校の国際バカロレアの教育プログラムを取り入れた探究的な学習が展開できるようにICT機器の整備や各教科の教材・実験実習用具・書籍等の購入などを教員と連携・協働しながら行っています。私たち学校事務職員は、学校の教育活動へ直接的には関わっていないのかもしれませんが、本校で充実した教育活動が行われるように教育環境整備など学校事務からサポートしていこうという意識を持って仕事をしています。

本校は、県内でもICT機器が整備されている学校であり、教材や実験実習用具に充当している費用も多いのではないかと思います。このような環境の中で生徒の皆さんが探究的な学習や学校生活ができるのは、とても恵まれているなど感じています。これからも、より一層本校の教育活動が充実していき、よりよい学校づくりが推進されるように学校事務職員として学校事務から主體的に、また積極的に学校運営や教育活動へ関わっていきたいと思います。

引き続き、よろしくお願いいたします。



防災学習

主幹教諭：白井 裕史



佐賀中学校生徒による取組発表

11月27日（金）の6、7校時を使い防災学習を行いました。30年以内に南海トラフ巨大地震が起る確率は70から80%とされています。つまり、中学生の皆さんは将来遭遇する地震です。だからこそ、自分事として考え、今のうちに備えておくことは大切です。とはいえ、実感がないのも事実でしょう。だからこそ、今回の防災学習の時間をきっかけに自分事として考える授業にしよう企画しました。インターネット上にはたくさんの地震の情報や備え、津波の想定などの情報があります。この多くの情報を自分たちの地域や環境に合わせて整理し、行動することが重要です。そのためにそのような取り組みを同じ中学生がしていることを知ることは皆さんの考えを刺激できるのではと考え、講師として黒潮町立佐賀中学校の2年生をお願いしてみました。快く講師のお願いを受けてくださり学校の取組をまとめて発表してくれました。地域の人と一緒に防災訓練や、自宅の中の避難路の確保



武田先生によるワークショップ

など、日本一「短い」「近い」「長い」「遠い」「新しい」防災活動として位置づけ学習の成果や情報収集の整理の仕方もあわせて参考にすることができたのではないのでしょうか。7校時は実際に宮城県で東日本大震災に遭遇し新聞社で取材を行われていた宮城教育大学の武田先生の講義を聞く機会を作りました。10年がたとうとする今でも続いている捜索活動の悲しい現実があることはみなさんの心に現実の厳しさを訴えたことでしょう。津波発生時の避難の大切さや、教訓を考えるワークショップではしっかり考えられていました。

この授業から1か月がたちますが、みなさんの心の中にはまだ学習したことが心に残っていますか？今年の冬休みはコロナ禍の影響もあり、自宅で家族とゆっくり過ごす人も多いでしょう。この機会にぜひ家族で地震が発生した時の行動や備えについて実際に確認してみてください。年末大掃除のついでに自宅内の避難経路も確保してはどうでしょう。登下校路で地震が起こったときはどこに避難するか、高い場所はあるのかも、初詣のついでに確認しておいてはどうでしょう。3学期には確認した内容が役に立ち、「助かる人」から「人を助けられる人」に考えが広がる防災学習の時間にしたいと計画しています。

生徒の感想・振り返り ※一部抜粋



- ・佐賀中学校の取り組みは今までになかった視点でとても参考になりました。武田先生のお話では、逃げる時は自分で考え、常に油断しないことと一度逃げたら引き返さないことが大切だとわかりました。この2つは災害時常に意識するように親とも話しました。災害が起こっても冷静に判断できるようにしたいです。
- ・今回、防災教育を通じて地震や津波の恐ろしさを改めて知る事ができました。また、災害に備えるためにはどんな事をしておくべきか、何をを用意するべきかという事を確認する事ができました。この防災教育をきっかけに家族間での避難所などについても話し合う事ができたのでとても良かったです。
- ・私は佐賀中学校の取り組みに関心をとても持ちました。私の地区にも南海トラフ地震が発生した時、津波が来ます。そのために日頃から私の地区では防災訓練、会議、説明会、親睦会などを行っています。私も進んで参加しています。ですが、参加している人は毎回同じような人ばかりで、それに参加しない、できない人がいます。そのため、佐賀中学校の取り組みには地域の関わりが深く、そういったものに進んで参加する人が多いため、すごい、どうしたら私の地区もそんな風になれるか、と関心をもちました。そして一人一人の家を訪問する、進んで声をかけ参加を呼びかける、など解決策も学べました。実際、そのようなことから防災会で家を訪問しようという案を出し、近々実践しようという話になっています。こんな風に先日学んだことをこれからの活動に活かしていこうと考えています。有り難うございました。
- ・様々な震災のことは知っていたけど、どうい悲しい思いをしている人がいるのかとか、今でも見つからない人を懸命に探していることとかを知って、改めて震災について考える事ができた。
- ・講演で今のみんなの地震や津波の意識ではだめで、意識を変えなければいけないということが分かった。これから家で地震や津波が来たらどうするのかと言うことを話し合ったり、備蓄の確認をしようと思った。
- ・まず、佐賀中学校さんの取り組みの発表において、「屋内避難訓練」というアイデアはとても参考になりました。居間や寝室から「玄関先まで」避難できるかをシミュレーションしておくことは、避難において完全に盲点であったと気づくとともに、非常に効果的かつ日常的に実践できる避難訓練であると感じました。我が家でも実際に行ってみたいと思います。また、防災への取り組みを通して、差別・偏見ゼロの町を目指しているという点にも感銘を受けました。災害から生き延びるだけでなく、その先の避難所での生活への備えとして地域全体の意識改革に取り組んでいるということは、「防災」の意識の集大成であり、素晴らしいプロジェクトであると思います。全体を通して、やはり「学校」という地域と密接に関わる組織だからこそ、地域の人々との結びつきが非常に強く、年間10回以上の避難訓練などを行うことができるのではないかと気づきました。高知国際中学校も、時間はかかると思いますが、私たち生徒の取り組みを通して、もっと地域との結びつきを強くしていきたいと考えました。最後に、武田先生の講演にあった、「生き延びて、自分が（避難所等で）『助ける側』になる。」という言葉が特に印象に残っています。避難所での生活においては、掃除や物資の運搬、炊き出しや配膳、給水のお手伝いなど、中学生にもできることがたくさんあること、そして私たちが積極的にお手伝いに取り組みすることで避難所の空気を明るくすることができるということを教えていただき、「助ける」ためにも「生き延びる」備えをしっかりしておきたいと強く感じました。

2 学期の行事・イベント

2 学期には、新型コロナウイルス感染予防に注意を払いながらたくさんの行事が行われました。下記の他にも、黎明祭(全学年)やオリンピック・パラリンピック教育推進事業におけるワークショップ(3 年)、ななこカフェ等もありました。高知国際中学校だよりや高知国際高等学校だより、SNS にも情報を載せていますので、そちらもぜひご覧ください。



実験中

1 年生「オーテピア高知みらい科学館」 理科担当

12 月 11 日(金)に 1 年生 60 名でオーテピア 5 階の「高知みらい科学館」へ行ってきました。ここでは、プラネタリウムを用いた地球の運動に関する学習と、学校では難しい気体の密度を測定する実験を行いました。生徒はオーテピアまでの移動も含めて自分で計画をしました。初めてのプラネタリウムや実験を体験した生徒も多くいて、感動の音が漏れていました。

2 年生「総合：職業リサーチ」 総合的な学習の時間担当

有志が SA で作成したキャリアブックを参考に、自らの探究を深めたい職業群を選択し、文献調査をしたり、対象の方にインタビューを行ったりしました。修学旅行で培う予定だった「グループでのリサーチスキル」を補う他、慣れない外部の方とのやりとりで緊張する様子もみられました。このキャリアの学びは、3 学期に成果を発表する予定です。



グループでインタビュー

3 年生「総合：プレ PP(パーソナルプロジェクト)発表会」 総合的な学習の時間担当

MYP のコアである個人研究「PP(パーソナルプロジェクト)」の練習、そして自らのキャリアを探究する目的で年度当初から取り組んできたプレ PP のまとめとして、11 月 23 日(水)に発表会を行いました。それぞれが自らの進路にかかわる課題や疑問を明らかにするためにに行った文献研究やインタビュー結果を踏まえてまとめたプレゼンテーションで研究の概要を発表しました。



プレゼンテーション形式で発表

生徒の活躍

高知県統計グラフコンクール

第四部 高知県教育長賞 佐藤さん
第四部 入選 山中さん
第四部 佳作 石丸さん / 楠瀬さん
第四部 努力賞 田中さん / 上岡さん

第 21 回高知市陸上競技カーニバル

中学女子 800m 第 1 位 上岡さん
中学男子 砲丸投げ 第 1 位 辻本さん

第 66 回高知県青少年読書感想文コンクール高知市予選

入選 加治木さん / 倉松さん / 岩井さん / 西尾さん / 足達さん



本校は令和 2 年に国際バカロレア機構より MYP 認定校として認定されました

高知県立高知国際中学校
〒780-0852 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号
TEL:088-844-1221 FAX: 088-844-4823
URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kokusai-jh/>
Email: kokusai-jh@kochinet.ed.jp



高知県立高知国際中学校・高等学校 公式 twitter
<https://twitter.com/kochikokusai>



高知県立高知国際中学校・高等学校 公式 Facebook
@kochikokusai

